

2. 流域及び河川の自然環境

2-1. 流域の自然環境

尻別川流域の中央に支笏洞爺国立公園、北西にニセコ積丹小樽海岸国定公園の自然公園があり、豊かな自然とすぐれた自然景観に恵まれている。また、支笏洞爺国立公園内には、日本百名山の1つになっている羊蹄山がそびえており、富士山に似た姿から蝦夷富士とも称され、季節ごとに変わる美しさに訪れる人々の心をとらえている。北西部には、世界でも屈指の良質なパウダースノーに恵まれたニセコ山系スキーエリアがあり、日本国内はもとより外国からのスキー客が急増している。

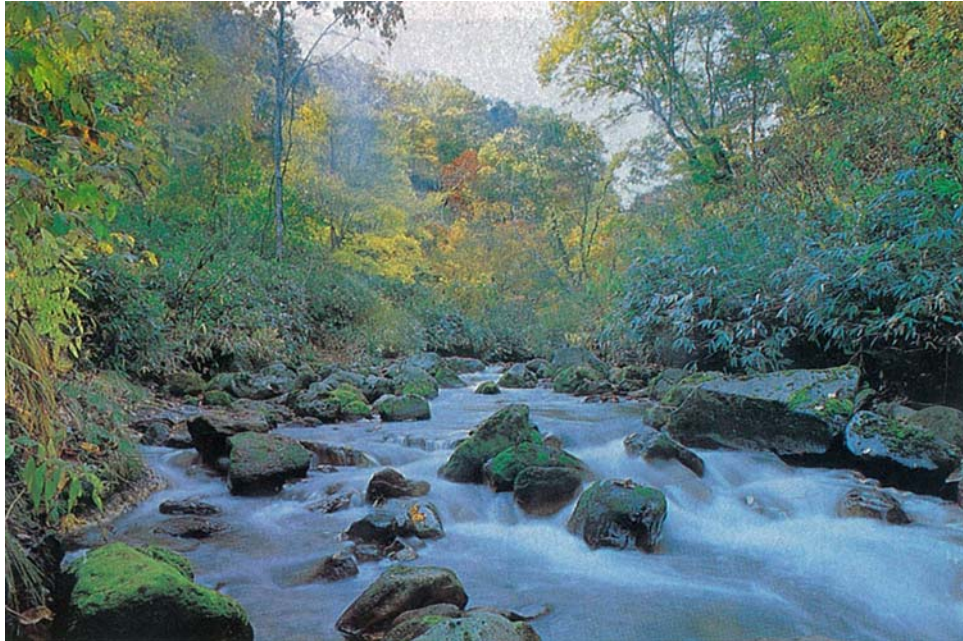


羊蹄山と蘭越町市街地

(植生)

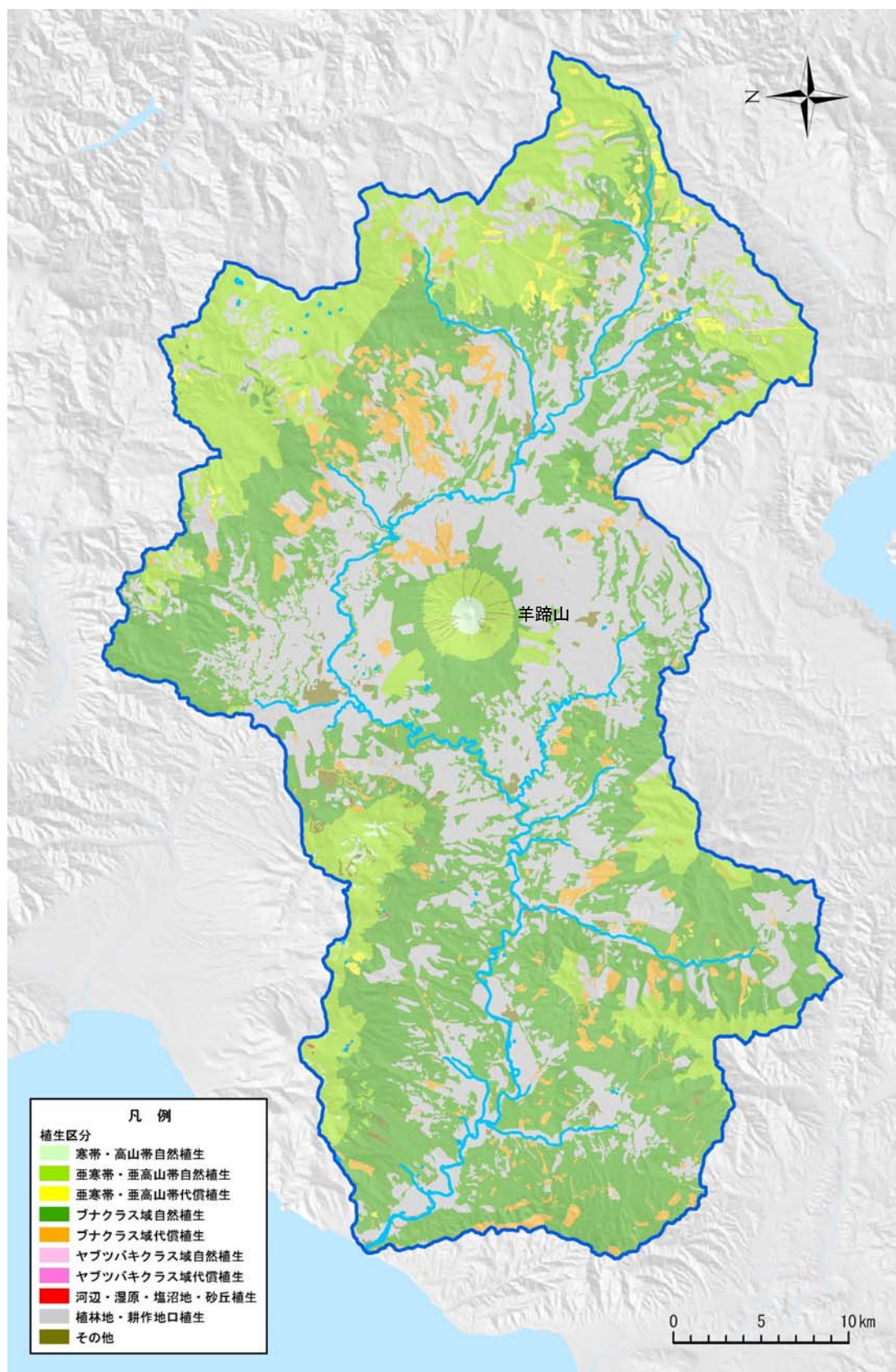
尻別川流域は羊蹄山、ニセコ山系をはじめ、豊かな自然とすぐれた自然景観に恵まれている。羊蹄山の一帯は「支笏洞爺国立公園」に指定されており、山頂付近の高山植物帯は、国の天然記念物に指定されている。

植生は図 2-1 に示すとおり、流域内はブナクラス域自然植生の占める割合が多く、寒冷帯特有の植生となっている。



尻別川上流の植生

資料：尻別川治水史



出典：植生環境省生物多様性センター

図 2－1 植生図

(哺乳類)

尻別川流域には、エゾトガリネズミ、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾヤチネズミ、エゾタヌキ、キタキツネなどが生息している。ヤナギ低木林の占める高水敷では、エゾヤチネズミやキタキツネなどがよくみられる。



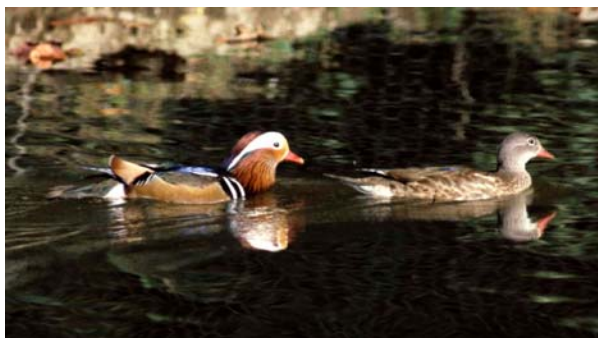
エゾユキウサギ



キタキツネ

(鳥類)

尻別川流域には、河口部の海浜植生、草原、樹林帯、山岳地域等、多様な自然環境を有しており、様々な種類の野鳥が生息している。河口付近にはセグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、ウミネコなどの海鳥がみられる。河川には、オシドリ、マガモ、カルガモが生息しているほか、高水敷にはイソシギ、ハクセキレイ、ヤマセミ、カワセミがみられる。また、オジロワシ、ハイタカ、ハヤブサなどの猛禽類が確認されており、尻別川流域の自然環境が多様であることを表している。



オシドリ



ヤマセミ

(両生・は虫類)

尻別川流域に生息する両生類は、水辺と樹林地を往来するエゾサンショウウオやエゾアカガエルなどが生息している。は虫類は、平地から低山地の森林、草原、水辺などでみられる、シマヘビやアオダイショウなどが生息している。



エゾサンショウウオ



エゾアカガエル

(魚類)

尻別川流域に生息する魚類は、海と川を行き来する回遊魚として、カワヤツメ、マルタ、キュウリウオ、アユ、シラウオ、サケ、サクラマス（ヤマメ）、ビリンゴなどが確認されている。淡水魚は、スナヤツメ、エゾウグイ、ドジョウ、イトウ、ニジマスなどが確認されている。絶滅危惧種であるイトウは、尻別川を代表する種に位置付けられており、市民団体が活発に保護活動を行っている。また、尻別川ではカワヤツメやアユの内水面漁業が営まれている。



イトウ



アユ

資料：小樽開発建設部

(昆虫類)

尻別川流域に生息する昆虫類は、山地から丘陵地にかけての湿地や山際の滞水などに生息するエゾトンボ、低山地から平地にかけての池沼・水田等の周辺に生息するノシメトンボがみられる。草本類が分布する高水敷にはハラオカメコオロギ、カンタン、ヒナバタ、エゾシロチョウなどが生息しているほか、湿地にはカワラゴミムシ、樹林地にはエゾマイマイカブリが生息している。



ノシメトンボ



エゾシロチョウ

表 2-1 尻別川の重要種

区分	NO	種名	指 定 区 分				その他
			文化財保護法	環境省レッドデータブック	環境省レッドデータブック(2006更新)	北海道レッドデータブック	
植物	1	エゾエノキ				R	
	2	ノダイオウ		VU			
	3	シラネアオイ				Vu	
	4	オクエゾサイシン				R	
	5	ヤマネコノメソウ				R	
	6	ヤマタニタデ		VU			
	7	カタクリ				N	
	8	ミクリ		NT		R	
	9	オニスゲ				R	
	10	オタルスゲ				R	
両生類	1	エゾサンショウウオ			DD	N	
哺乳類	1	コテングコウモリ		VU		R	
鳥類	1	カンムリカイツブリ				Vu	
	2	ヒメウ			EN		
	3	ヒシクイ	天然	VU	VU	R	
	4	コハクチョウ				R	
	5	オシドリ			DD	R	
	6	シノリガモ		LP	LP	R	
	7	ミコアイサ				Vu	
	8	ミサゴ		NT	NT	Vu	
	9	ハチクマ		NT	NT	R	
	10	オジロワシ	天然	EN	EN	En	絶滅(国内)
	11	オオタカ		VU	NT	Vu	絶滅(国内)
	12	ハイタカ		NT	NT	Vu	
	13	ケアシノスリ				R	
	14	ハイイロチュウヒ				R	
	15	ハヤブサ		VU	VU	Vu	絶滅(国内)
	16	オオジシギ		NT	NT	R	
	17	ヨタカ			VU	R	
	18	ヤマセミ				R	
魚類	1	スナヤツメ		VU			
	2	マルタ				N	
	3	エゾウグイ				N	
	4	アユ				R	
	5	シラウオ				R	
	6	イトウ		EN		Cr	
	7	ヤマメ				N	
	8	カジカ				Vu	
	9	ルリヨシノボリ				R	
昆虫類	1	ハラオカメコオロギ				R	
	2	オオイナズマヨコバイ				R	
	3	スナヨコバイ		NT		R	
	4	キバネクロバエ				R	
	5	エダガタニクバエ				R	
	6	コヒメヒョウタンゴミムシ				R	
	7	サザナミヒメカゲロウ				R	
底生動物	1	モノアラガイ		NT			
	2	カワシンジュガイ		VU			
	3	エゾコオナガミズスマシ				R	

出典: 河川水辺の国勢調査(H2~17)

・文化財保護法

天然: 天然記念物 特天: 特別天然記念物

・環境省レッドデータブック(2006年12月に鳥類、両生類、爬虫類、その他無脊椎動物についてレッドリストの見直し)

EX: 絶滅

CR: 絶滅危惧ⅠA類

NT: 準絶滅危惧

EW: 野生絶滅

EN: 絶滅危惧ⅠB類

DD: 情報不足

CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類

VU: 絶滅危惧Ⅱ類

LP: 地域個体群

・北海道レッドデータブック

EX: 絶滅

En: 絶滅危惧種

Lp: 地域個体群

EW: 野生絶滅

Vu: 絶滅危急種

N: 留意種

Cr: 絶滅危機種

R: 希少種

・その他

絶滅: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年)

(国内) 国内希少野生動植物種

(特国) 特定国内希少野生動植物種

(緊急) 緊急指定種

2－2．河川及びその周辺の自然環境

(1) 上流部

源流部から喜茂別町付近までの上流部では約 1/60 以上の急勾配であり、山岳溪流の様相を呈しており、四季折々で様々な表情を見せる。

植生は、高山山頂や溪谷斜面でよく発達するササードケカンバ群落やエゾイタヤーシナノキ群落が分布している。このような自然環境を反映して、国の天然記念物に指定されているオオワシなどの広い行動圏を必要とする種が確認されている。河岸にはヤナギ類を主とした河畔林と森林が連続しており、生態回廊（コリドー）として機能している。河道は、瀬や淵が連続的に形成され、多様な河川環境が創出されており、冷水環境を好むフクドジョウ、ニジマス、ヤマメ、ハナカジカなどが確認されている。



尻別川上流（喜茂別町双葉地区）

資料：尻別川写真集

(2) 中流部

喜茂別町付近から蘭越町付近までを流れる中流部は、河床勾配は約 1/130～1/250 程度となっている。流域のほぼ中央にそびえる羊蹄山を大きく迂回しながら幾多の支川を合わせ、ニセコの狭窄部を流下して蘭越町に至っている。また、安定した水量を利用した水力発電が 6 箇所で行われているが、全ての取水堰に魚道が設置されている。

河畔にはヤナギ類が発達し、ハルニレーヤチダモ林やケヤマハンノキ林などの自然林が分布している。清流河川にみられるバイカモやミクリなどの貴重な植物が生育している。河道は、蛇行が多く瀬と淵が形成され多様な環境を有しており、カワヤツメ、アユ、イトウ、ニジマス、ヤマメ、ハナカジカなどが確認されている。鳥類は、採餌場として河川を利用しているヤマセミなどのほかに、オオタカなどの猛禽類が確認されている。



尻別川中流(豊国橋付近)

資料:尻別川写真集

(3) 下流部

蘭越町付近から河口までは、河床勾配が約 1/500～1/5,000 程度となっており、大きく蛇行しながら流れ、日本海に注いでいる。沖積平野が広がるこの区間は、肥沃な土の堆積によって形成された土壌であること、尻別川の清流に恵まれていることから、管内最大の水田地帯となっている。

河畔にはヤナギ類が発達し、高水敷にはヤマタニタデ、カタクリ、ミクリなどの貴重な植物、河口部にはハマニンニク、ハマボウフウ、イソスミレなどの海浜植物群落が生育している。魚類は、カワヤツメ、アユ、イトウ、サケ、ヤマメなどが確認されている。また、目名川合流点付近より上流の河床材料は砂礫質であることから、アユの産卵床が多く確認されている。

鳥類は、高水敷の草地にオオジシギなどの草地性の鳥類や、穏やかな河川水面にはオシドリ、シノリガモなどが採餌場や休息場として利用している。また、清流河川に生息するカワシンジュガイや湿地環境を好むエゾサンショウウオやカワラゴミムシが確認されている。



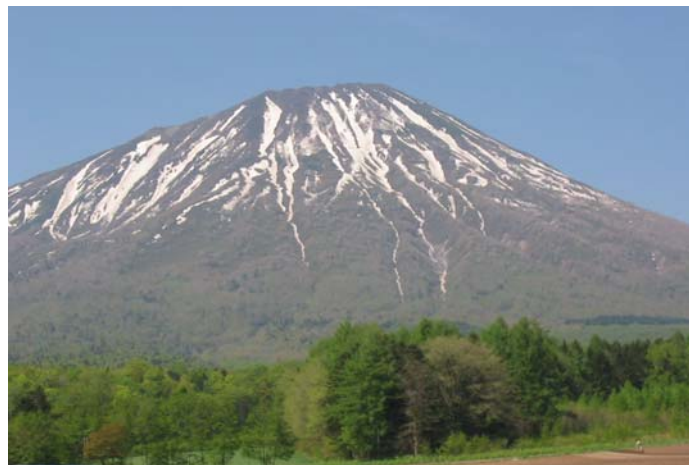
尻別川下流（河口）

資料：尻別川写真集

2－3. 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 景観・景勝地

尻別川の流域のほぼ中央には、コニーデ型の山容がひととき美しい、蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山(1,893m)が位置している。羊蹄山は、高山植物の宝庫で種類が多いことで知られ、「後方羊蹄山^{しりべしやま}の高山植物帯」として国の天然記念物の指定を受けている。また、「京極のふきだし湧水」は国内最大級のスケールといわれている。昭和60年には、環境庁の「名水百選」にも選ばれ、全国ブランドとなった。



羊蹄山



ふきだし公園

表 2-2 主な観光対象

市町村名	名称	内容
蘭越町	大湯沼	湖底からぶくぶくとイオウ泉の熱湯を吹き出しその温泉を満々とたたえた沼で、周辺を流れる川のあちこちからもイオウ泉の湯が吹き出している。探勝遊歩道を巡る前に、隣接の自然展示館に立ち寄ると一層楽しみが増します。
	コックリ湖	樹齢200年から300年の古木がうっそうと茂っている、手つかずの大自然の中にひっそりとたたずんでいる。鳥のさえずりと、風の音以外何も聞こえない、秘境の風情が魅力。入口から徒歩（限定）で4km入った所にある。
	紅葉の滝	新見溪谷にある高さ約30mの滝。その名の通り、秋は特に美しい。
	貝の館	太古の時代の巨大な貝の化石や、宝石のように光る美しい貝が、世界中から集められ展示されている。隣には特産物の直売センターがあり、そちらでも貝にちなんだグッズが勢ぞろい。
ニセコ町	有島記念館	有島記念館の建つニセコの地は、有島の出世作「カインの末裔」の舞台ともなった所であり、父から引き継いだ広大なニセコの農場を、土地共有という形で小作人に無償で解放し、当時の社会に大きな反響を呼んだことでも知られています。
	道の駅ニセコビュープラザ	農産物の直売スペース、観光情報のインフォメーションと町内の特産品を置いている情報プラザ、24時間利用可能なトイレ棟がある。9:00～18:00まで情報プラザにて常駐の観光協会職員が応対してくれるので、周辺情報を知るにも便利。（7月～8月は19時まで）
	五色温泉郷	ニセコアンヌプリとイワオヌプリに挟まれた谷合いの温泉。夏は登山や沼巡りのベースキャンプとして人気です。冬は深い雪に囲まれ、その効能に昔から雪を乗り越え湯治に訪れる人もいた野趣溢れる露天風呂が旅情を誘います。
	昆布温泉郷	春の新緑、秋の紅葉が美しい渓流沿いに広がる、ニセコエリア最大の温泉郷。冬はスキーのベースキャンプとしても人気で、モイワ・アンヌプリスキー場とは目と鼻の先。古くから保養地として有名であり、北海道三大霊泉の一つとして数えられており、効能は確かでここから沸き出る塩化物炭酸水素泉は皮膚の角質や脂質を溶かしてくれる作用が強く、「美人の湯」と呼ばれ、親しまれています。
真狩村	羊蹄山自然公園	キャンプ場・テニスコート・グラウンドなど多彩な施設を備えた200ヘクタールの広いレクリエーションゾーン。
	八洲秀章音楽碑	日本レコード大賞や勲四等瑞宝賞叙勲などの功績を残した真狩村出身の作曲家八洲秀章氏の遺業を称えた碑。
	真狩川河川公園	「細川たかしの像」「開基百年モニュメント」が建立されており、村民や観光客の憩いの場になっている。
	まっかり温泉	最近湧いたばかりの温泉。露天風呂からは羊蹄山を一望できる。宿泊施設はありませんが、世界のユリ園コテージが隣接しています。
	レストラン・マッカリーナ	真狩産の四季折々の食材と羊蹄のおいしい水をベースに、本格的フランス料理を。「風のレストラン」をテーマに美しい自然と調和したおしゃれなレストランが誕生しました。シェフはTVでもお馴染みの菅谷伸一氏。お食事のほか、ご宿泊やパーティにもご利用いただけます。（身障者トイレあり）
	真狩フラワーセンター	心を和ませる花とのふれあいを家庭でも楽しんでもらいたいという想いから、フラワーセンターでは、豊富な種類の花壇苗や鉢花、カサブランカをはじめとする切り花、ハーブの種やユリ球根、ガーデニングなどの園芸資材、ドライフラワーやリースなどの花加工品、アロマテラピー関連商品などが勢ぞろいし、魅力的な『花』空間が広がっています。（身障者トイレあり）
	世界のユリ園コテージ	1,400平方メートルの敷地に、ユリの女王カサブランカやかぐわしいルレーブの他、新種のルツカやティバー等75種25,000株のユリが植栽されている「世界のユリ園」内にオープンしたコテージ。ここをステーションにまるでメルヘンの世界に遊ぶ新しいタイプのリゾートが楽しめます。
留寿都村	赤い靴公園	芝生ときれいな花の咲く赤い靴公園には、童謡「赤い靴」の主人公「きみちゃん」をモデルに作られた像があり、村のシンボルともなっています。
喜茂別町	喜茂別町民公園	温泉、アスレチック遊具15基、パークゴルフ場27ホール、テニスコートクレー2面、野球場、レストラン有り。
	フラワーストリート	国道276号の双葉・鈴川地区にあり、街路樹周辺に約20,000本の花苗が植えられ、通過する観光客の目を楽しませている。
	ふるっぶ温泉	平成8年2月に温泉湧出、同年8月に仮設浴場をオープン。羊蹄山、尻別岳が眺望でき、尻別川のせせらぎも聞こえてきます。神経痛などによいと好評。
京極町	ふきだし公園	昭和60年、環境庁の名水百選に「羊蹄のふきだし湧水」として選定される。1日約8万トンもの水量をふきだし、1年中6.5℃前後という冷たさを保ち、水質を守るため自然を大切にしている。遠方からも水を汲みに来る人で賑わう。大型遊具、イカダ、バーベキューコーナーがあります。
	京極温泉	ふきだし公園に隣接。露天風呂から眺める羊蹄山は格別。泡風呂やサウナもあり、ゆったりくつろげる大広間も完備。食道、売店も充実しており、京極町のリラックスゾーンです。
倶知安町	羊蹄山	標高1,898メートル、コニーデ型の富士山そっくりの秀峰。頂上を中心とする7,000ヘクタールは国立公園に指定されており、数々の高山植物（国の天然記念物）が生息しています。日本百名山の第九座。
	鏡沼	ニセコアンヌプリの北斜面に位置。まるで別天地を想わせるほどの静けさで、波静かな水面は、周りの景色を見事に映し出している。6月頃には、沼の周辺一面に綿毛に包まれた白い穂をつけたワタスゲの群落が咲き誇り、訪れる人の目を楽しませてくれる。

出展：尻別川治水50周年記念 大地を潤す尻別川 2006 小樽開発建設部
 北海道観光総合データファイル <http://kanko.pref.hokkaido.jp/kankodb/index.htm>
 各市町村ホームページ

(2) 文化財

尻別川流域の主な文化財として天端山大仏寺本堂天井など流域開拓の歴史を物語る多くの文化財が存在している。また、先住民族の遺跡が蘭越とニセコに多数集中しており、流域一帯には古くから先住民族が生活していたことを示している。

1) 文化財

・大仏寺本堂の天井画(倶知安町、指定有形文化財)

天端山大仏寺本堂天井画は、初代住職斎藤^{にんずい}忍随によって描かれた作品である。忍随は^{あきた}秋田の生まれ、曹洞宗永平寺で仏道を修め、明治30年頃北海道に渡り布教に努め、明治32年倶知安に入り、明治40年頃堂宇を建立した。

天井画は大正3年頃から描きはじめ、完成をみたのは大正7年と数年を費やしている。178点の天井画は、山水画、肖像画、観音の図、花鳥図、さらに墨絵、彩色画などがあり、題材も十二支、教訓的逸話、修行図、仏画等々多様性に富んでいる。

昭和46年に倶知安町指定有形文化財の第1号に指定されている。

2) 史跡

古くは今から1万年以上も前の旧石器時代(先石器時代)のものもあり、ニセコの西富遺跡、富士見遺跡がこれに相当すると考えられている。

蘭越の立川遺跡は旧石器時代から、新石器時代(縄文時代)への移行期にあたるもので、考古学上重要なものである。

縄文の遺跡としては、ニセコの狩太6遺跡、狩太8遺跡、倶知安の高砂遺跡、八幡遺跡などが挙げられる。またニセコの曾我北栄ストーンサークルは、約3000年前の縄文時代前期の墳墓であると推定されており、学術上貴重な遺跡である。また蘭越の港大照寺遺跡は、縄文時代に続く擦文時代の遺跡として注目されている。

・曾我北栄遺跡(北栄ストーンサークル)

ニセコ草創当時から縄文土器や磨製石器が発見されていた。そして曾我にはストーンサークルが発見され、古くから人の住んでいた遺跡であろうと考えられていた。昭和30年に、従来発見された石器類とまったくちがった旧石器時代の道具類も発見されている。

表 2-3 尻別川流域の文化財等指定一覧

指定区分	種別	名称	所在地	指定年月日	概要
町	無形民俗文化財	ニセコ赤坂奴	ニセコ町	平成2年8月20日	小樽市の住吉神社で赤坂奴の小頭をしていた陶山増太郎氏が、昭和7年の狩太神社祭の折に神輿渡御の先ぶれ役として奴振りを紹介したのが始まり。平成2年8月20日、ニセコ町無形文化財に指定され、現在「ニセコ町赤坂奴保存会」には約20名のメンバーがいる。
町	史跡	曾我環状列石	ニセコ町	平成2年3月5日	中心のサークルを取り囲むようにして全部で5つのストーンサークルから構成されている。昭和26年駒井東京大学教授によって発掘され、約3,500年前の墳墓であろうと推測される遺跡であることがわかっていく。
町	有形文化財/美工	大仏寺本堂の天井画	倶知安町	昭和46年3月30日	大仏寺初代住職斎藤忍随が描いた178点からなる力作。昭和46年3月30日付で倶知安町指定有形文化財(第1号)に指定された。
町	無形民俗文化財	倶知安赤坂奴	倶知安町	昭和60年7月1日	昭和8年から倶知安神社例大祭で御輿渡御行列している倶知安町の無形文化財である。
町	無形民俗文化財	羊蹄太鼓	倶知安町	平成9年11月1日	昭和38年、高田緑郎さんによって作曲された和太鼓の演奏曲。倶知安の郷土芸能として未来へ継承すべき太鼓演奏曲であるとの観点から、平成9年11月1日無形民俗文化財に指定され、同時に羊蹄太鼓の保存、継承団体として「くっちゃん羊蹄太鼓保存会」が団体指定された。

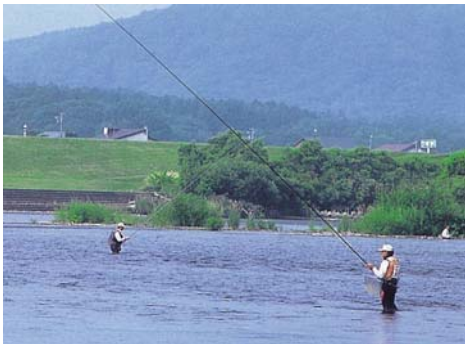
出展：北海道教育委員会ホームページ 北海道の文化財 <http://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bns/bun-hogo.htm>
 北海道文化資源DB <http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-bsbsk/bunkashigen/index.html>
 しりべしネット しりべしの観光ポイント <http://www.shiribeshi-i.net/marugoto/tourist>
 倶知安・史跡マップ <http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/mpsdata/web/1075/Map.pdf>

2-4. 河川環境を取り巻く背景

河川の利用については、釣り、カヌーやラフティングが盛んであり、市街地周辺の高水敷では公園やパークゴルフ場が整備されており、多くの人達に利用されている。尻別川と住民とのふれあいでは「全国アユ釣り大会」、「尻別川手作りカヌー下り」等のイベントをはじめ、近隣の小中学生等を対象に「川の自然観察」等が行われ、尻別川に対する親しみや関心が高まっている。



カヌー



全国アユ釣り大会



川の自然観察会（水生生物調査）

2-5. 市民活動

尻別川は一年を通じて水量が安定していることから、道内でもカヌーやラフティングといった体験観光が盛んに行われている。近年は外国からの観光客も増加しており、雄大な自然を資源とした観光産業が盛んである。また、平成11年から平成14年まで4年連続、平成16年から18年と3年連続で清流日本一に輝いており、地域住民の誇りとなっている。こうした状況を背景として、河畔林再生を目指した「雪中植林」や地域の小学生による「サクラマス放流」、川の清掃活動として「尻別川クリーン作戦」、イトウの保護に取り組んでいる「オビラメの会」などの市民活動が活発に行われており、地域住民の関心が非常に高い。



尻別川クリーン作戦



稚魚の放流



雪中植林



カヌー

2-6. 自然公園等の指定状況

流域には数多くの自然環境が残されており、その中でも特に重要なものについては自然公園としての指定を受けて保全されている。流域の中央部に位置する「支笏洞爺国立公園」、北西部の「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」が自然公園法の指定を受けている。これらの自然公園の指定に加え、流域内には国指定の天然記念物である「後方羊蹄山の高山植物帯」がある。また、鳥獣保護区として指定されている箇所は4箇所であり、流域には数多くの貴重な自然環境が保全されている。

表 2-4 各種保護地域指定一覧

保護区分	整理番号	市町村	鳥獣保護区域	区域	存続期間	備考
道	64	蘭越町	コックリ湖	磯谷郡蘭越町に所在する道有林後志管理区156林班09、10、33及び34の各小班、158林班01、02、31及び32の各小班並びに159林班02、05、06、09及び31から33までの各小班的区域 [特保] 道指定コックリ湖鳥獣保護区のうち道有林後志管理区156林班09及び33小班、158林班01小班及び31小班並びに159林班05及び09の各小班的区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16. 9. 28 第816号 [特保 第817号])	406ha [特保34ha] 森林鳥獣生息地
	65	蘭越町	チセヌプリ	磯谷郡蘭越町字湯里に所在する道有林後志管理区172林班01、02、97小班的区域	平成18年3月13日 ～平成37年9月30日 (H18. 9. 30 第716号)	302ha 森林鳥獣生息地
	66	倶知安町	半月湖	虻田郡倶知安町字高嶺に所在する道有林倶知安経営区境界標北山25を起点とし、この点から同町字高嶺と同町字比羅夫との字界を北に進み同道有林境界標北山56に至り、この点から同道有林と民有地との境界を南東に進み同道有林境界標北山50に至り、この点から同道有林2林班と5林班との境界を南東に進み同道有林2林班、5林班及び10林班との境界に至り、この点から同道有林2林班と10林班との境界を南西に進み同道有林1林班、2林班及び10林班との境界に至り、この点から同道有林1林班08及び06小班と01小班的区域を西に進み同道有林境界標北山13に至り、この点から同道有林と民有地との境界を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成13年10月1日 ～平成23年9月30日 (H13. 9. 28 第1631号)	229ha 森林鳥獣生息地
	67	京極町	京極	虻田郡京極町に所在する国有林倶知安事業区135林班から139林班まで（138林班イ小班的区域を除く）の区域	平成13年10月1日 ～平成23年9月30日 (H13. 9. 28 第1631号)	391ha 森林鳥獣生息地

出展：平成18年度鳥獣保護区等位置図（別冊編）

表 2-5 自然公園等の指定状況

種別	名称	指定日	面積 (ha)
国立公園	支笏洞爺国立公園	昭和24年5月16日	99,473
国定公園	ニセコ積丹小樽海岸国定公園	昭和38年7月24日	19,009

表 2-6 天然記念物等指定状況

指定区分	種別	名称	所在地	指定年月日
国	天然記念物	後方羊蹄山の高山植物帯	倶知安町・京極町・喜茂別町・真狩村・ニセコ町	大正10年3月3日

出展：北海道教育委員会ホームページ 北海道の文化財 <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bns/bun-hogo.htm>



図 2-2 尻別川流域における自然環境概要図